

道徳

第2学年

呉市立広南小学校

指導者 T1 大瀬戸 春菜

T2 山崎 聖子

主題名

助け合う友達

教材名

森のともだち（東京書籍）

内容項目

B-9 『 友情・信頼 』

本単元で育成する資質・能力

思考・表現

協力・協働

1 令和6年1月25日（木） 第6校時

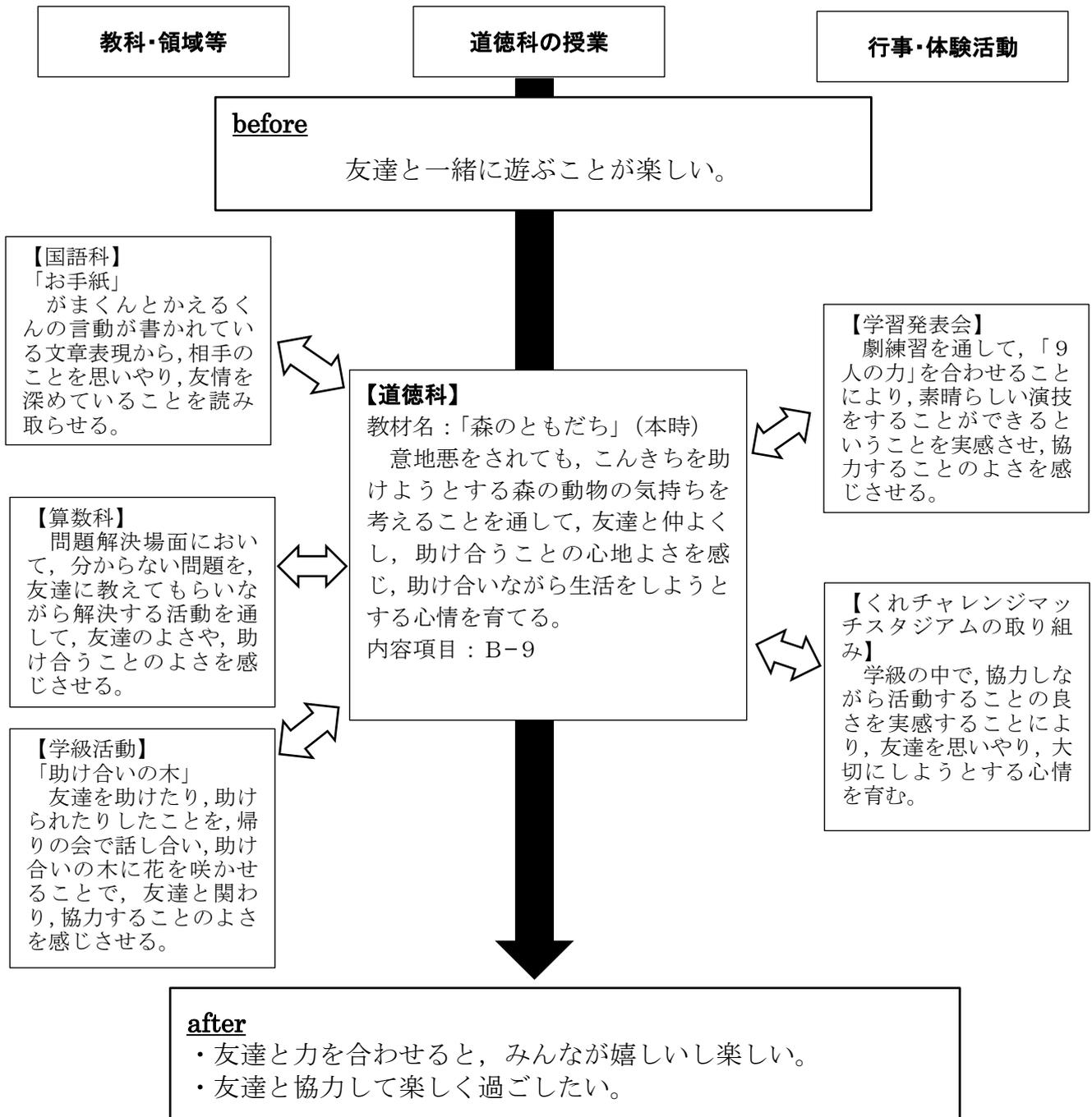
2 主題設定の理由

- 本学級の児童は、困っている友達を見つけると、「どうしたの？」と声をかけたり、「手伝ってあげるよ」と、進んで手を差し伸べたりすることができる。事前に行ったアンケート結果では、88%の児童が、友達に助けてもらったことがあると回答した。また、9人全員が「友達を助けてあげたことがある」という質問に対し、肯定的評価を行っていた。実際に、係活動の仕事や、生活科のおもちゃ作りでは、友達同士で助け合いながら協力して活動をしている姿が見られた。また、下学年とのこうりゅうでは、1年生や保育所の園児を助けてあげたいという気持ちが強く、遊び方を優しく教えることができている。「相手の気持ちを考えて行動をしている」という質問では、9人全員が肯定的回答であったが、実際は自分の気持ちを優先してしまうあまりに、相手が傷つく言動をしてしまうことがあり、トラブルになることも多い。また、指導の際に、自分が同じことを言われたらどのような気持ちになるかを問うても「私は、嫌な気持ちにならない」と答え、友達の立場に立って、物事や気持ちを考えることがまだ十分ではない。この結果から、困っている友達を助けることはできるが、仲間と協力することのすばらしさや、相手の気持ちを考えて行動することが不十分であるという現状が見えてくる。そのため、相手の気持ちを考えて、日頃から助け合って生活することのよさを感じさせたい。
- 本主題は、第2学年の指導内容B-（9）「友達と仲よくし、助け合うこと」をもとに設定したものである。これは、友達関係における基本とすべきことであり、友達との間に信頼と切磋琢磨の精神をもつことに関する内容項目である。この段階においては、幼児期の自己中心性から十分に脱しておらず、友達の立場を理解したり、自分と異なる考えを受け入れたりすることが難しいことも少なくない。しかし、学級での生活の中で、自分の欲求を押し通すだけでなく、譲り合ったり許し合ったり、力を合わせて成し遂げたりすることで、友達と仲よくし、助け合うことの心地よさを感じさせていくことが大切である。
- 本教材は、わがままで乱暴なきつねのこんきちが、おおかみに襲われているところを、森の動物たちに助けられたり、けがをした友達をみんなで手当てする森の動物たちを見たりして、友達と助け合うことの大切さに気付くことのできる教材である。
- 指導にあたっては、導入で、3学期の目標に「友達と助け合いたい」「係の仕事を協力して行いたい」と書いている児童のワークシートの写真を提示し、友達と助け合ったり、協力をしたりするとどんなよいことがあるのかを問い、本時のめあてに繋げていく。資料の場面状況を捉えさせるために、挿絵を活用し、視覚的な理解を促したい。
- 展開前段では、森の動物たちが、こんきちに意地悪をされているときの気持ちを考える。意地悪をされて、嫌な気持ちになっていることを押さえたうえで、そんなこんきちが困っている様子を見た時に、どのような相談をして助けることにしたのかを役割演技させる。役割演技によって、こんきちを助けに行こうとした理由を考えさせる。
- 中心発問は、動物たちが協力をしたから、こんきちやびよん子が助かったということを押さえたうえで、「ごめんよ、ごめんよ」と泣いて謝るこんきちに、森の動物たちはどんな言葉をかけたか役割演

技させる。また、補助発問により、いじわるだったこんきちが変わったのは、森の友達を見て、友達のよさや、助け合うことのすばらしさを知ったことに気付かせ、助け合うとどんないいことがあるのかという、本時のねらいにせまりたい。

終末の振り返りでは、これからどんなことを助け合って過ごしていきたいか、これからの自分について考えさせたいので、子どもたちが友達と助け合って活動している様子を映像で見せ、助け合うことのすばらしさを感じさせ、余韻をもたせて終わりたい。

3 他の教育活動との関連



4 本時の学習

(1) 本時のねらい

意地悪をされても、こんきちを助けようとする森の動物の気持ちを考えることを通して、友達と仲よくし、助け合うことの心地よさを感じ、助け合いながら生活をしようとする心情を育てる。

(2) 学習の流れ

	学習活動	主な発問と予想される児童の心の動き (◎中心発問)	指導上の留意点(・) (☆評価の観点)
導入 (5分) 課題意識を持つ	1 課題意識を持つ。 ○助け合うことには、どのようないいことがあるか考える。	○友達と協力したり、助け合ったりすると、どのようなよいことがありますか。 ・もっと仲良くなれる。 ・協力した方ができることが増えるし、楽しい。 ・一緒に頑張ろうと思える。 ・友達のおかげで頑張れる。	・3学期の目標で「助け合いたい」「協力したい」と書いている児童のワークシートを提示し、助け合ったり、協力をしたりすることで、どのようなよいことがあると思うか、考えさせ、本時のめあてに繋げる。
		助け合うことには、どんないいことがあるのだろう。	
展開 前段 (25分) 学びを深める	2 教材「森のともだち」を読んで話し合う。 ○こんきちに意地悪をされている、森の動物の気持ちを考える。 ○意地悪をしてくるこんきちを助けるか悩む、動物たちの気持ちを考える。 ○友達と仲良くし、助け合うことの大切さについて考える。	○意地悪してくるこんきちからにげているときの動物たちは、どのような気持ちだと思いますか。 ・こわい。 ・追いかけてこないで。 ・どうして、意地悪してくるの。 ・森から出て行ってほしい。 ○こんきちの叫び声を聞いた森の動物たちは、どのような相談をして、助けることにしたのでしょうか。 ・こんきちくん、おおかみに食べられそうだよ。 ・助けに行く？ ・こんきちくん意地悪だし、ぼくたちまで食べられてしまうのは嫌だな。 ・でも、こんきちくんも森の友達だから助けてあげようよ。 ・みんなで行けば大丈夫。 ◎「ごめんよ、ごめんよ」と泣いているこんきちに、森の動物たちはどんな言葉をかけたでしょう。 T: 助けてもらったのに逃げてしまっでごめんよ。 C: どうしてにげたんない。 C: もういいよ。 T: ぼくは、もうひとりぼっちでくらしたほうがいよね。 C: そんなことないよ。僕たちは森の仲間だよ。	・こんきちに意地悪をされて、森の動物たちは嫌な気持ちになっていることを押さえる。 ・意地悪をするこんきちが困っている様子を見たときに、動物たちが相談している内容を、3人グループで役割演技をすることで、大切な友達を助けようという動物たちの気持ちを想像させる。 ・こんきちを助けに行こうとした理由を考えさせる。 ・動物たちが協力し合ったから、こんきちやびよん子を助けることができたということを押さえ、教師がこんきち、児童が森の動物たちになり、役割演技をする。 ・謝るこんきちに対して、動物たちがかける言葉を考えさせることで、友達のよさや、友達と仲良くし、助け合うことの大切さを感じさせ

		<p>T: ぼくもこの森にいていいの？ どうして？</p> <p>C: みんなでいた方が楽しいし、みんなでいたら協力して、悪いおおかみが来ても助け合うことができるだろう？</p> <p>C: こんきちくんがいてくれた方がみんな助かるよ。</p>	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割演技をした児童の感想や、見ている児童から役割演技で感じた意見を出させることで、助け合うことの大切さを実感せる。 ・補助発問で、意地悪だったこんきちが、かわったのはなぜかを考えさせることにより、友達のよさや助け合うことの素晴らしさに繋げる。
<p>展開後段 (5分)</p> <p>学習したことを振り返る</p>	<p>3 本時の学習をまとめる。</p>	<p>○今日のめあての「助け合う」ことには、どんないいことが、あるのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・助け合うと、どのようなよいことがあるか発表させ、本時のまとめに繋げる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・一人でできないことも、助け合うことで、できるようになる。 ・友達と一緒に頑張ると、勇気が出る。 ・一人のときより、頑張れる。 		
<p>終末 (10分)</p>	<p>4 これからの自分について考える。</p> <p>5 子どもたちが友達と助け合って活動している様子を紹介する。</p>	<p>○友達とどんなことを、助け合って過ごしていきたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強で困っている友達がいたら、教えに行く。 ・泣いている友達がいたら、そばに行って、話を聞いてあげる。 ・これからも9人で力を合わせて <p>○みんなが助け合っている様子を見てください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちも助け合っていることはたくさんあるな ・これからも9人で力を合わせて助け合っていこう。 	<p>☆友達と進んで助け合っていこうとする意欲を持つことが出来る。(ワークシート)(発表)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助け合って活動している場面を、映像で見せることで、助け合うことのすばらしさに気付かせ、進んで友達と助け合っていこうという意欲を持たせ、余韻をもって終わる。

5 板書計画

The chalkboard contains the following elements:

- Top Left:** Illustration of a bird-like character with text: 「おつかいありがとう」
- Top Middle:** Illustration of a bear-like character with text: 木の子どもたち, いしよけんのいびんの手助け, びんこ
- Top Right:** Illustration of a rabbit-like character with text: 木の子どもたち, こんきちがひっこした
- Bottom Left:** Illustration of a group of characters with text: 何かうたを始めた, ほろけい、よいし、わんたけい... 食べられるかわらそう, こんきちの命もみんな協力助けられる
- Bottom Middle:** A large box with text: 木の子どもたち, 助けてあげよう, どうして助けたの?, もう、いよ, 木の子どもたち, いしよに助けて
- Bottom Right:** Illustration of two children shaking hands with text: 助け合う, だすけ合う, だんないことがあるだろう, 一人でき、い、ことも, がんばり、出る